

応募題名：デイラジ (daily radi)

【応募者】 ○長尾 優花 (純真学園大学)

【指導教員】 新井 正一 (純真学園大学)

対象 (具体的に)	小学生中学年～高校生
キーワード	ボードゲーム、日常生活と放射線

1. アピール・ポイント

小学生でも楽しく、高校生でも楽しく勉強になる学習ゲームです。みんなが慣れ親しんでいる、ボードゲーム (人生ゲーム) からヒントを得ています。

1) アイデアや技法等のオリジナリティ (独創性)
・日常生活の中のどんな場面で放射線を受けているのか、こまを進めながら勉強していきます。自分の止まったマスに書いてある内容に対応した放射線量が書かれています。

2) 教材としての新規性

・日常生活のさまざまなところで放射線を受けていることを具体的に、なるべく身近な内容を通してわかりやすく明記している。

2. 背景・目的

放射線というワードを聞いて一般に思いつくのは、原子力発電、X線撮影など、あまり身近にあるものとは結びつかない。しかし、実は自分たちが知らないだけで、私たちの身の回りにはあらゆる放射線があり、日常的に放射線を受けていることを知ってもらい、もっと放射線に関心や親近感を持ってもらうため。

3. 内容

1) 教材

ボードゲーム。サイコロの出た目の数に従い、自分のこまを進めていく。自分の止まったマスの内容を見て、自分が何をして、どこでどのくらいの放射線を受けているのか加算して計算しながら進む。0.1mSv、0.5mSv、10mSv単位ごとのお札を作り、お金の計算のように計算しやすくする。ある制限を設け、その制限の値まで放射線量がた

まったらゲームを抜ける。最後まで残った人が勝ち。

マスの内容例

・サッカーの修行でブラジルに1年間行く。1年間の自然放射線量10mSv受ける。

・東京からニューヨークまで修学旅行に行く。往復の移動で0.2mSv受ける。

・幼いころからの夢である、キャビンアテンダントになる。1年間で5mSv受ける。

2) ブース実演

①デイラジの実演

②まとめ

4. まとめ

デイラジを実際にすることで、楽しさの中にも学習に役立つ知識が入っていることを知ってもらえる。小学生にとって放射線は少し難しい内容かもしれないが、このボードゲームをすることで難しさや堅苦しさを払拭できると考える。小学生のうちにはただ楽しみ、放射線を身近に考えてもらうだけでいいが、高校生になれば、どのくらいの線量を受けているのか考えながら勉強して興味を持ってもらいたい。